

学校法人河野学園
下関短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

下関短期大学の概要

設置者	学校法人 河野学園
理事長名	松井 忠夫
学長名	山根 秀夫
A L O	河野 光子
開設年月日	昭和37年4月15日
所在地	山口県下関市桜山町1番1号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
栄養健康学科		50
保育学科		100
	合計	150

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

下関短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 6 月 28 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

河野学園は「良妻賢母こそ良き家庭人、延いては良き社会づくりの根本である。礼法を基調とする人間づくり、その上に立って女性に必要な知識・技能を授ける」という建学の精神と当該短期大学の「温雅にして礼節をたつとぶ（温雅而尚礼節）」という教育理念も明確に示されており、学科ごとの教育目標も建学の精神や教育理念を基調としつつ、現代的な視点を組み入れた形で示されている。全学的な教育理念、学科ごとの教育目標の点検も委員会などにおける検討の上、教授会に提案されており、組織的かつ適切に実施されている。

栄養士及び幼稚園教諭・保育士の養成機関として、組織的で創造的な教育実践が行われている。2 年次のゼミナール（ゼミ）に先立ち、1 年次にプレゼミナール（プレ・ゼミ）やクラスアワーなどを設けられており、入学者の実情に則した多様な教育の改善と、学生への動機付けが促進されている。また、一定の免許や資格などの取得への配慮がされ、教学の魅力が高められている。さらに卒業生へのアンケートを実施して、教育内容の改善に努めている。なお、厳しい財政事情にもかかわらず、図書館は河野学園の図書館としても学園関係者などに門戸を開き、その維持管理に努力している。

学生支援に関しても工夫をこらしている。入学前教育から始まり、進度の遅い学生に対するリメディアル教育、前述のプレ・ゼミなど、考え得るすべてを実践している。わけても社会人学生の再チャレンジを支援する環境が整備されている点と、管理栄養士国家試験受験のための e-ラーニングを在学生のみならず卒業生にまで開放している点は評価できる。また、地域社会に開かれた短期大学として公開講座など社会的活動も展開されている。

理事長を中心に学校法人の管理運営体制は確立されており、理事会及び評議員会は寄附行為に基づいて定期的開催され、監事も適切に業務を遂行している。その他、教授会などの短期大学の運営体制は十全に確立しており、複数の教職員による兼務体制という年来の課題はあるにせよ、事務組織も整備されている。

法人全体の中・長期財務計画書は作成されていないが、毎年度の事業計画と予算編成については各部門の意向を集約して理事会で最終決定されており、その予算の執行も適切に

行われている。財務状況については学校法人全体、短期大学部門ともに過去3ヶ年消費収支が支出超過となっているが、余裕資金はある。経営安定化のためには、入学定員の充足と消費収支バランスの改善が望まれる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 年度当初に全教員に教育・研究計画書の提出を求める一方、年度末には実績報告書を提出させるなど、教員相互の目的意識向上に努めている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学科会議を頻繁に開いて学生の把握に努める一方、ゼミ、プレ・ゼミ制度を導入して学生とのコミュニケーション機会を増やし、親身な指導に努めている。
- 平成18年度より「学生時代についてのアンケート」を実施し、在学中の学習が卒業後の仕事や生活にどの程度の効果・影響を及ぼしているかを調査している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学者に対して、4月下旬に実施されている学外研修（1泊2日）は、全学生参加の形態を取っており、学内のコミュニケーションを培う機会となっている。
- 栄養健康学科で、在学生、卒業生、一般を対象に管理栄養士資格試験のためのeラーニングを実施していることは、地域貢献にもつながっている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会に対して開かれた短期大学としての自覚ある活動がされている。特に、公開講座の内容は魅力的である。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域V 学生支援

- 入試広報戦略についての工夫が求められる。人員確保や新企画を検討することで、予算を有効に活用することが課題である。

評価領域VI 研究

- 教員の研究費については、研究、教育の質の向上のためにも支給額についての検討が課題である。

評価領域VIII 管理運営

- 事務職を兼務している教員に負担がかかっており、事務組織上の工夫・改善が望まれる。

評価領域IX 財務

- 余裕資金は十分あるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。また、収容定員充足率をあげるように努力されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

学園の「良妻賢母こそ良き家庭人、延いては良き社会づくりの根本である。礼法を基調とする人間づくり、その上に立って女性に必要な知識・技能を授ける」という建学の精神と、短期大学の「温雅にして礼節を尊ぶ(温雅而尚礼節)」という教育理念とも明確に示されている。学科ごとの教育目標も、現代的な視点を組み入れた形で示されている。教育理念・教育目標の点検は、委員会から教授会に提案され、組織的に実施されている。教授会における審議・決定は理事会に上申され、法人としての最終決定が行われている。

建学の精神・教育理念は学生便覧や学内掲示、入学式での学長式辞、オリエンテーションなどを通じて学生に周知されている。学科ごとの教育目標の学生への周知についても、専門教育科目や実習の事前・事後指導を通じて、随時、実施されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育内容は、栄養士及び幼稚園教諭・保育士の養成機関として教育課程を体系的に編成し、教員間で協同しながら組織的で創造的な教育実践が行われている。2年次のゼミに先立ち、1年次にプレ・ゼミ、あるいはクラスアワーなど、入学者の目的に即した多様な教育改善を行い、学生の動機付けを促す努力もうかがわれる。

免許・資格の取得への配慮がなされ、教学の魅力を高めている。例えば、栄養健康学科では、栄養士に加えてフードスペシャリスト、ウェルネスデザイナー、訪問介護員2級を同時に取得できるように配慮されている。授業評価については、毎年2回行い、その集計結果を公表している。科目ごとの評価結果を授業改善につなげる、より実効性のある方法が求められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数に関しては、短期大学設置基準及び養成施設としての基準を満たしている。研究紀要は毎年発行されており、大学の持続的な研究活動が見受けられる。なお、教員の研究発表を支援したり、教員の研修制度を導入したりするなど一層の資質向上を図ることが、長期的には局面を打開する人材の育成につながるものとする。

図書館は河野学園の図書館としても学園関係者などに門戸を開き、広範な利用者を受け入れ、利便性も高い。厳しい財政事情にもかかわらず、維持管理に努力している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

中途退学者は減少しており、教育的取り組みが効果をあげている。学科会議を頻繁に開いて学生の把握に努める一方、ゼミ、プレ・ゼミ制度を導入して学生とのコミュニケーションの機会を増やしたことが効果の要因と考えている。授業料未納者の増加傾向を憂慮し、分納及び延納の制度を導入するなど配慮がみられる。

平成 18 年度より「学生時代についてのアンケート」を実施し、在学中の学習が卒業後の仕事や生活にどの程度の効果・影響を及ぼしているかを調査している。地方の小規模短期大学において、地域で学び地域で働くという地元のニーズにこたえていく上で貴重な取り組みといえる。定員を確保し経営基盤を安定化するためには、教学の魅力を高める努力が求められていると考える。地元の多様なニーズを吸収し、多様な職業選択を可能にするため、市場性のある免許資格を導入することが課題である。

評価領域Ⅴ 学生支援

多様な入試制度（5 内容 11 種類）により、志願者の適性にあった入試が行われている。オープンキャンパスのほかに、高校生の個別の短期大学訪問に対応している。入学前教育に関しては、学科ごとの教育目標に照らした取り組みがされている。学生の学力の二極化への対策として、クラスアワーを活用して、進度の遅い学生へはリメディアル教育を行い、さらに初年次教育の一環として、プレ・ゼミを実施して学習意欲の喚起に努めている。学生のメンタルケアについては、クラス担任やゼミ担当者による個別対応がされているが、今後、学内カウンセラーの配置などの課題が残る。

地域に根ざした短期大学としての教育理念の下、社会人学生の再チャレンジを支援する環境が整備されている。また、在学生、卒業生、一般を対象として管理栄養士国家試験受験のための e-ラーニングを実施している。

評価領域Ⅵ 研究

年に 1 回発行される紀要には、論文のほかに実践報告も掲載され、大学全体の教育研究を活性化させる働きをしている。研究日は、週 1 日確保されており、夏期・春期の授業のない期間は学長の許可を受け、長期研修を取ることができる。研究室は、教員ごとに個室が整備されている。研究費に関しては、大変に厳しい状況である。研究の質の向上、教育

の充実のためにも支給額についての検討が課題となろう。

栄養健康学科と附属幼稚園との食育についての共同研究は、幼稚園と当該短期大学の双方にとって有意義で実践的な研究である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会に対して開かれた短期大学としての自覚ある社会的活動が展開されている。特に、公開講座の内容は魅力的である。山口県エコキャンパス協議会の主旨に賛同し、毎年2回、学生と教職員で実施している「全学クリーン作戦」は、クラスアワーを利用した取り組みであり、全員参加の社会的活動への取り組みが評価できる。保育学科では、専任講師と学生ボランティアによる「子育て支援ルーム」を開き、附属幼稚園の延長保育や地域社会の子育てについての外来相談などへの対応がされている。

国際交流については、隔年で実施されている海外研修において、アメリカ合衆国の幼稚園や大学生との交流、留学生の受け入れがされている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長を中心に学校法人の管理運営体制は確立されており、理事会及び評議員会は寄附行為に基づいて定期的開催され、また監事は適切に業務を行っている。教授会は学長のリーダーシップの下に、月1回定期的開催され、審議機関として機能している。教授会の諮問機関として各種委員会が置かれ、規程に基づいて適切に運営されている。事務部門は複数の教職員による兼務体制が実施されており、事務組織上の改善が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人全体の中・長期財務計画書は作成されていないが、毎年度の事業計画と予算編成については、各部門の意向を集約して校内理事会・評議員会・理事会で決定されている。

予算の執行も規程に基づき適切に行われている。また計算書類などは監事と公認会計士による監査の下、適正に作成されている。

財務情報も平成16年度から公開している。財務状況については、余裕資金はあるものの、学校法人全体、短期大学部門ともに過去3ヶ年消費収支が支出超過となっており、経営安定化のためには、入学定員の充足と消費収支バランスの改善が課題である。施設設備については、関係規程の整備を行い、施設設備の維持管理や安全確保のための対策が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は継続的に行われており、活動の定着化が図られている。また、自己点検・評価の結果が授業改善や施設設備の整備などに活用されている。